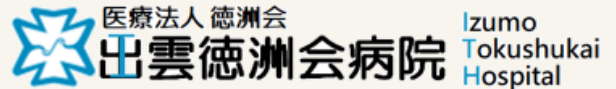


おなかのヘルニア外来



代表：0853-73-7000

「ヘルニア外来希望」とお伝えください

【専門外来 診療日】

毎週水曜日 9:00-11:30

【担当医師】

大谷 裕

日本ヘルニア学会会員 学会評議員
日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会会員
中四国ヘルニア手術手技研究会世話人
日本内視鏡外科学会技術認定医



«ヘルニアについて»

足の付け根や下腹部は一番腹圧がかかりやすい場所です。鼠経（そけい）ヘルニアは、加齢とともに足の付け根（鼠経部）や下腹部の筋肉が弱くなることで、腸管や内臓脂肪などがおなかの中から皮膚のすぐ近くや陰嚢にまで脱出してくる病期です。男性では50歳以降に、女性では40歳代以降に発症し、その約9割は男性に発症するとされています。近年急速に高齢化が進んでいますが、鼠経ヘルニアの患者さんはだんだん増加すると考えられています。

《治療（手術）》

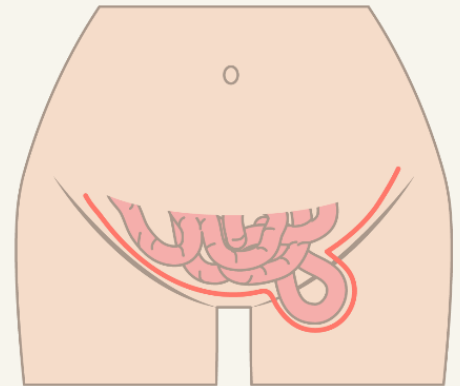
多くの病院で行われていますが、その多くは経験の少ない若手外科医が手術手技を学ぶために、手術の「登竜門」として行われていることが少なく無く、簡単な手術であると認知されがちですが、医師の経験と技術によって治療成績（術後合併症や再発率）が大きく異なり、大変専門性の高い疾患です。

当院のヘルニア外来では、鼠経ヘルニアのみならず、腹部に発生する様々なヘルニア（大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、臍ヘルニア、腹壁ヘルニアなど）の診療に特化した外科医が診察から手術まで一貫して行い、正確な診断、術後合併症や再発の少ないヘルニア診療を目指して取り組んでいます。

《症状》

鼠径部にやわらかい小さな膨らみとして触れることができ、立った状態や咳をした時などにより膨らみ、横になると速やかに膨らみがなくなります。

その膨らみが自然に治る事は無く、時間が経つとともに次第に大きくなり、10年以内に約7割の方が膨らみ以外の症状（痛み、違和感、腸が飛び出したまま戻らな時には緊急手術が必要な状況になってしまうこと 覚するようになるとの報告もありますので、鼠経ヘルニアと診断した方には、できるだけ早い段階での手術をお勧めしています。鼠経ヘルニアは悪性の病気ではありませんので、手術のタイミングは、患者さんの生活スタイルや治療中の各種疾患などを考慮して決定しています。



【検査と診断】

鼠経ヘルニアでは、「いつ頃から」「どのような症状が」「どのようなタイミングで起こるのか」を聞き取る事がとても重要だと考えています。診断をより確かにするために、補助的に超音波検査やCT検査などを行うこともあります。各種検査によりヘルニアの正確な診断（ヘルニアの場所、大きさなど）を行い、手術方法を決定しています。

【当院で行っている手術】

鼠経ヘルニアは、自然に治る事はありません。ちまたには鼠経ヘルニアを治す体操、ヘルニアバンドという体表から圧迫するベルトなど、いろいろな治療と称した方法や商品がありますが、これらは治療では無く、状況によっては症状を悪化させる場合があります。治療のためには手術が必要です。

鼠経ヘルニアは、下腹部の筋肉が弱くなってしまふことによって発症する病気です。そのため、鼠経ヘルニアの治療は、その弱くなってしまった筋肉および筋肉の隙間を、人工膜（メッシュと呼んでいます）で補強、修復するのが手術の肝になります。手術の方法は、大きく分けて以下の2通りあります。



① 鼠径部切開前方到達法

鼠径部切開法は、鼠径部に4～5cmほど切開して行う手術方法です。現在でも主流の手術方法で、約6割はこの方法で治療されています。局所麻酔や腰椎麻酔下でも施行できるため、何らかの疾患により全身の状態が悪い方にもこの方法で手術を行う事が出来ます。

② 腹腔鏡下手術

全身麻酔下にお腹に小さな穴を数か所開けて、腹腔鏡（専用のカメラ）や手術器械を挿入し、モニター画面にお腹の中を映して行う手術です。この術式のメリットは、各種ヘルニアの診断が正確に行える事、開腹手術と比較して傷が小さいため術後の痛みが少ない傾向にある事、また身体への負担が少なく社会復帰が早い事などが挙げられます。しかし、鼠径部切開法に比べ技術の難易度が高いとされ、術式を習熟するには相当数の経験を要します。誰でも行える手術ではなく、慣れない外科医が行うと手術に関連した合併症や再発が多いとされ、経験と技術を持った外科医が行うべき手術方法です。

【担当医紹介】

外科医の修練を開始して約25年が経過した外科専門医が担当いたします。その間の経験した各種ヘルニア手術症例数は1000例を超え、近年では腹腔鏡下手術に力を入れて参りました。そして、自ら執刀するのみならず、後進への知識や技術の伝承にも積極的に取り組んでおります。手術を行うだけでなく、全国学会でその手術成績を発表したり、経験した症例や手術手技を紙上で発表してきた業績が評価され、全国学会である日本ヘルニア学会の評議員も務めています。

鼠径ヘルニアに代表される各種ヘルニアに対する外科手術は、一般的には「簡単な手術」、外科の中でも若手が担当する事の多い手術として認知されていますが、正確な診断、経験と技術に裏打ちされた手術手技を要す、専門性の高い、決して「片手間」で行なわれてはならない手術であると考えて診療してきました。

珍しい疾患ではありませんが、誰にも相談できずに長年過ごしてきたという方や、間違った情報や生活によって症状が悪化し、難儀な治療を強いられる方などもおられ、受診された患者さんの治療に対する思い、決意を受け止めながら診療にあたっております。ヘルニア外来を受診されたお一人お一人のお気持ちを大切にして診療を進めて参ります。



学会発表（全国学会、ヘルニア関連の発表のみ：過去5年間）

- ① 第 116 回日本外科学会総会（2016 年 4 月 大阪）
大腸癌に対する腹腔鏡下手術の術前・術中に診断された鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の検討
- ② 第 14 回日本ヘルニア学会学術集会（2017 年 10 月 東京）
upside down stomach を伴った食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術の経験
- ③ 第 78 回日本臨床外科学会総会（2017 年 11 月 東京）
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP 法）時に工夫している事
- ④ 第 28 回日本内視鏡外科学会総会（2017 年 12 月 横浜）
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP 法）の際に使用する mesh 挿入時の工夫について
- ⑤ 第 117 回日本外科学会総会（2018 年 4 月 横浜）
当院で施行された腹壁ヘルニアに対する外科治療成績の検討
- ⑥ 第 15 回日本ヘルニア学会総会（2018 年 6 月 東京）
ヘルニア嚢解放を先行する腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術（LVHR）の経験

- ⑦ 第 118 回日本外科学会総会 (2019 年 4 月 東京)
ヘルニア嚢先行アプローチによる腹腔鏡下腹壁ヘルニア根治術
～特に高度肥満者に対する応用について～
- ⑧ 第 16 回日本ヘルニア学会学術集会 (2019 年 6 月 29 日 札幌)
ヘルニア嚢先行アプローチにて良好な術後経過を得た腹腔鏡下ヘルニア修復術の検討
- ⑨ 第 80 回日本臨床外科学会総会 (2019 年 11 月 24 日 東京)
Pledget 付き非吸収糸を用いた混合型食道裂孔ヘルニア門縫縮の経験
- ⑩ 第 31 回日本内視鏡外科学会総会 (2019 年 12 月 福岡)
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術時に導入している二つの工夫について
- ⑪ 第 17 回日本ヘルニア学会学術集会 (2019 年 5 月 四日市)
ヘルニア嚢先行アプローチによる腹壁瘢痕ヘルニア修復術
- ⑫ 第 82 回日本臨床外科学会総会 (2020 年 10 月 大阪)
症例数に恵まれない施設で腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を如何に教育するか？
- ⑬ 第 19 回日本ヘルニア学会学術集会 (2021 年 5 月 東京)
当院における鼠径ヘルニア修復術式に対する教育の現状

誌上発表 (全国誌、ヘルニア関連発表のみ)

- ①臨床外科 61(8), 1135-1138, 2006
上腹部白線ヘルニアの 1 例-composix kugel patch による修復術の経験と術式の工夫-
- ②日本内視鏡外科学会雑誌 12(4),433-438, 2007
腹腔鏡下胆嚢摘出術後早期に発症したポートサイトヘルニア嵌頓の一例
- ③日本臨床外科学会雑誌 69(4),833-837,2008
右鼠径ヘルニアに対する Kugel 法術後 2 年目に発症した絞扼性イレウスの1例
- ④日本臨床外科学会雑誌 70(8), 2544-2547, 2009
Direct Kugel patch を用いた待機的手術を行った両側閉鎖孔ヘルニアの1例
- ⑤臨床外科 65(5), 729-733, 2010
Direct kugel Patch を用いて鼠径法で修復した大腿ヘルニア嵌頓の1例
- ⑥臨床外科 68(2), 225-229,2013
高度肥満者に発症した臍ヘルニアの1例
- ⑦日本臨床外科学会雑誌 80(2),356-361 ,2019
大腸内視鏡検査で発見されたクーゲル®パッチによる結腸穿通の1例